

令和7年度小平市立小平第六小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

3 各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

「知識・技能」と「思考・判断・表現」の全ての項目で全国平均よりも上回っていた。特に漢字の項目では、全国平均より8ポイント以上高かった。「読むこと」に関する項目では全国平均を上回っているものの、他の項目に比べて正答率がやや低かった。

課題

「思考・判断・表現力」の中で「読む」ことに関する力の定着に課題があることが分かった。特に、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力や、目的に応じて文章と図表を結び付けて情報を見付ける力を身に付けさせることが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

読むことに関する力を定着させるために、授業の中で文章全体の構成を意識させながら要旨をまとめる活動を計画的に取り入れる。また、説明文の学習では、文章と図表などの資料を関連付けて読む練習を行い、目的に応じて必要な情報を的確に見付け出す力を養う。文章と図表を結び付けて理解する経験を積ませることで、実生活や他教科にも活かせる読解力の育成を図る。

【算数】

状況の分析

「知識・技能」と「思考・判断・表現」共に全ての項目で全国平均よりも上回っていた。

「思考・判断・表現」の項目では、全国平均を6ポイント以上、上回っており、特に、理由を記述式で答える問題の正答率が高い結果となった。

課題

「知識・技能」に関する項目は、都平均をやや下回っていた。他の項目に比べ、分数や小数を使った計算に関して正答率が低いことが分かった。異分母の分数の計算や、小数の計算で位の位置に留意して解く力を育成する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

分数や小数の計算力を高めるために、計算練習の時間を定期的に確保し、基本的な計算力を確実に定着させる取り組みを継続して行う。分数を使った計算では、通分の意味や手順を図や数直線を用いて確認し、視覚的に理解させる活動を繰り返すことで、理解を伴った計算力の定着を図る。また、小数の学習では位取りを意識させるために、答えを書いた後に小数点の位置を必ず声に出して確認する活動を取り入れ、位をそろえて計算する習慣を身に付けさせる。

【理科】**状況の分析****課題**

「知識・技能」と「思考・判断・表現」とともに全国平均よりも上回っていた。

特に「知識・技能」の項目では、顕微鏡の操作に関する問題の正答率が高く、全国平均に比べ 20 ポイント以上正答率が高い状況であった

実験結果を基に、他の条件での結果を予想して表現する問題では、全国平均をやや下回る結果になった。記述式の解答では無回答率が高い問題も見られた。結果を基に考察する力を高めていくことが必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

実験結果を基に他の条件での結果を予想する力を育てるために、授業では実験のまとめの時間を活用し、「もし条件を変えたらどうなるか」を児童に考えさせる発問を取り入れる。その際、ノートやワークシートに予想と理由を書かせ、友達と意見を交流する活動を通して、自分の考えを表現する習慣を付ける。また、記述する力を高めるために、授業中の問いに対して言葉で書いて説明する場面を増やし、答え方（条件→予想→理由など）を想起させながら繰り返し練習させる。

【質問紙】**状況の分析****課題**

一人 1 台の学習者用端末を用いた学習について、児童は自分のペースで学習を進めたり、分からないことをすぐ調べたりすることができるという利点を感じながらも、昨年度までに受けた授業での使用頻度（ほぼ毎日利用する）については、全国の値を 30 ポイント下回る状況であった。

児童が学習内容について図や表・グラフ、思考ツールを用いた情報の整理や、プレゼンテーションの作成といった技能を身に付け、友達と考えを共有したり協力しながら学習したりすることができる力を高めていく必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

学習者用端末の効果的な活用を発達段階に合わせて計画的・組織的に推進していく。授業支援アプリケーションを効果的に活用した協働的な学習の進め方について、実践の共有と教職員研修を 8 月までに重ねる。また、学習者用端末を活用した授業を相互参観する期間を年に 2 回設け、指導方法の工夫改善につなげる。11 月の小中連携の日に行う授業公開を通して、小平第二中学校、小平第十三小学校の教員とともに 9 年間を見通した学習者用端末活用について意見交換を行う。

2 月の学校公開の機会をとらえて、保護者や学校経営協議会委員を含めた地域の方に学習活動の中での学習者用端末活用状況について発信していく。